

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和6年 5月 31日

都道府県知事

岐阜県知事 古田 肇 殿

提出者

住 所 岐阜県海津市海津町馬目404-3

株式会社伊藤工務店

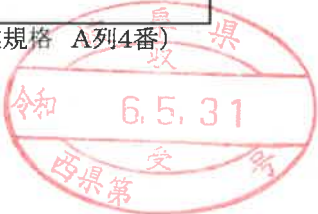
氏 名 代表取締役伊藤貴夫

電話番号 0584-53-0246

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社伊藤工務店
事業場の所在地	岐阜県海津市海津町馬目404-3
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06:総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高：900百万円
③ 従業員数	31人(会社全体)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	公共建築物などの新築、改修、解体及び 公共土木工事の施工に伴い発生 ・がれき類 : 再生処理会社に委託(破碎) →再資源化 ・ガラス陶器くず : 再生処理会社に委託(破碎) →再資源化 ・廃プラ : 再生処理会社に委託(破碎、圧縮等) →再資源化 ・金属くず : 再生処理会社に委託(破碎、切断等) →再資源化 ・建設汚泥 : 再生処理会社に委託(脱水、分級等) →再資源化 ・木くず : 再生処理会社に委託(破碎) →再資源化 ・石膏ボード : 再生処理会社に委託(破碎) →再資源化 ・混合廃棄物 : 再生処理会社に委託(選別、破碎等) →再資源化 埋立処理

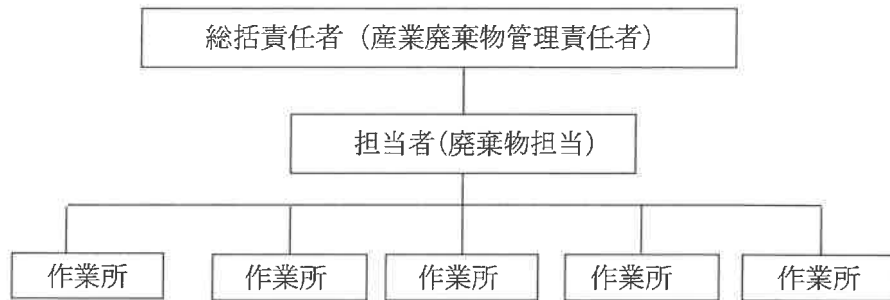
(日本産業規格 A列4番)



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(5年度) 実績】					単位：t
	産業廃棄物の種類	コンガラ	アスガラ	ガラスくず	廃プラ	金属くず
	排 出 量	29.7	3889.7	5.3	39.025	9.04
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	木くず	廃石膏ボード	混合	合計
	排 出 量	580.81	15.545	31.91	44.72	4645.75
	(これまでに実施した取組) ・ 廃棄物発生抑制を考慮した施工方法の選択。 ・ 材料の搬入数量を適切に管理し余材の発生を抑制する。 ・ 梱包材の再利用(引取)を要請する。					
②計画	【目標】					単位：t
	産業廃棄物の種類	コンガラ	アスガラ	ガラスくず	廃プラ	金属くず
	排 出 量	400	2000	5	30	5
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	木くず	廃石膏ボード	混合	合計
	排 出 量	560	10	25	40	3075
	(今後実施する予定の取組) ・ 廃棄物発生抑制を考慮した施工方法の選択。 ・ 材料の搬入数量を適切に管理し余材の発生を抑制する。 ・ 梱包材の再利用(引取)を要請する。					

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃棄物、有価物を施工条件等に合わせて分別に取り組む。 ・ 材料の搬入数量を適切に管理し余材の発生を抑える。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃棄物の混載がリサイクルの妨げになる事がある為、廃棄物発生時の分別を確実に行う。

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	無		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	無		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	無		

(第5面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 無		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 無		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（５年度）実績】					単位：t
	産業廃棄物の種類	コンガラ	アスガラ	ガラスくず	廃プラ	金属くず
	全 処 理 委 託 量	29.7	3889.7	5.3	39.025	9.04
	優良認定処理業者への 処理委託量	22.7	0	0.3	0.875	9.04
	再生利用業者への 処理委託量	29.7	3889.7	5.3	39.025	9.04
	認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0	0	0	0	0
	産業廃棄物の種類	建設汚泥	木くず	廃石膏ボード	混合	
	全 処 理 委 託 量	580.81	15.545	31.91	44.72	
	優良認定処理業者への 処理委託量	0	14.465	30.5	44.46	
	再生利用業者への 処理委託量	580.81	15.545	31.91	44.72	
	認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	0	0	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0	0	0	0	
	(これまでに実施した取組)					
	・ 材料の搬入数量を適切に管理し余材の発生を抑制する。					

(第6面)

		【目標】					単位：t
		産業廃棄物の種類	コンガラ	アスガラ	ガラスくず [※]	廃プラ	金属くず
②計画	全処理委託量		400	2000	5	30	5
	優良認定処理業者への処理委託量		20	500	3	10	2
	再生利用業者への処理委託量		400	2000	4	30	5
	認定熱回収業者への処理委託量		0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		0	0	0	0	0
	産業廃棄物の種類		建設汚泥	木くず [※]	廃石膏ボード	混合	
	全処理委託量		560	10	25	40	
	優良認定処理業者への処理委託量		100	5	5	10	
	再生利用業者への処理委託量		560	10	25	40	
	認定熱回収業者への処理委託量		0	0	0	0	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		0	0	0	0	
	(今後実施する予定の取組)						
	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物発生時の分別を確実に行う。 ・優良認定処理業者を積極的に活用する。 						
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。